

# 急性膵炎患者に対する入院 2 日以内の CT の実施率



## 測定対象

《分子》 分母のうち、当該入院の入院日から数えて 2 日以内に CT 撮影を実施した患者数  
《分母》 急性膵炎の退院患者数

## 解説

CT は、急性膵炎の診断と腹腔内合併症の診断に最も有用な画像診断で有り、実施するよう強く勧められます。CT の施行により、胃十二指腸潰瘍の穿孔など他の腹腔内疾患との鑑別や、腹腔内臓器の併存疾患や膵炎に伴う合併症の診断が可能になり、急性膵炎の重症度判定の一助になります。特に、重症急性膵炎では、超音波検査で十分な情報が得られないことが多く、治療指針の決定のために CT 検査が必要になります。ただし、急性膵炎の診断そのものためには、CT は必ずしも必要でない場合もあることに留意が必要です。

## 結果

2019 年度	100 %
2018 年度	100 %

## 分析

急性膵炎は命に関わる危険性のある疾患です。また、膵炎の原因は、胆石や腫瘍など様々です。膵炎の進展度により重症度が異なるため、病変の進展度の判定は重要となります。それらを早急に把握する上で CT 検査は必須であり当院では必ず実施しています。